

海洋エネルギー発電技術の早期実用化に向けた研究 開発事業 平成30年度予算額 9.0億円（新規）

事業の内容

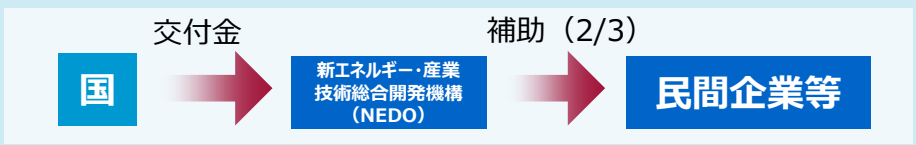
事業目的・概要

- 四方を海に囲まれた我が国は、地域や海域特性により「波力、海流、潮流、海洋温度差」などの海洋エネルギーの大きなポテンシャルを有しており、海洋エネルギーによる発電技術は、地域分散型の電源としての役割を担うものと期待されています。
- 海洋エネルギーによる発電技術については、我が国のみならず欧米諸国で商用化に向けた研究開発や実証研究が進められています。
- 本事業では、海洋エネルギー発電について、早期実用化を目指すことが可能な技術を選定し、海洋エネルギー発電システムの長期実証研究を実施します。

成果目標

- 平成30年度から平成32年度までの3年間の事業であり、平成29年度まで実施してきた海洋エネルギー発電に係る実証研究や要素技術の研究開発の成果を踏まえて、海洋エネルギー発電システムを実用化する技術を確立し、将来的には国内外への導入普及と新産業の創出を目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

海洋エネルギー発電システムの長期実証研究

- 海洋エネルギー発電システムのうち早期実用化が可能なものを選定した上で、発電特性や経済性等を検証するため、実海域での1年を通じた実証研究を実施します。（補助率2/3）

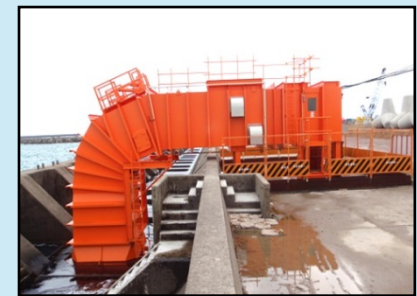
<平成29年度までに実施した技術の例>



機械式波力発電
(提供：三井造船)



水中浮遊式海流発電
(提供：IHI)



空気タービン式波力発電
(提供：エム・エムブリッジ)



海洋温度差発電
(提供：佐賀大学)